

第 108 回 アメリカ独立革命①

1 イギリス北米植民地の成立

・17世紀以降、多くのヨーロッパ諸国が北米に植民地を建設したが、特に東海岸には、() が建設した () が成立していた。



ジェームズ1世
ステュアート朝のイギリス王でピューリタンを弾圧した(97回)。ジェームズタウンは彼の名にちなむ。

- ・1584年、ローリが () 植民地を建設したが失敗した。
→その後1607年、タバコのプランテーション経営を基盤とする会社が、ジェームズタウンを建設し、ヴァージニア植民地を再建した。
→1619年に、最初の植民地議会が開設された。

- ・1620年、イギリスで迫害されていた、() というピューリタン集団が、() に乗ってプリマスに到達した。
→ () 植民地を建設した。
→後にボストンを中心とするマサチューセッツ植民地と合併した。
※アメリカ東北海岸の英領植民地を、まとめてニューイングランドという。



ポカホンタス
ディズニー映画で有名になったポカホンタスは、この時代の人。実在の人です。



収穫感謝祭の様子
1620年の冬は厳しく、入植者はインディアンへの援助により、何とか生き延びた。翌年、入植者はインディアンを招いて、一緒に収穫を祝った。これが収穫感謝祭のはじまりである。



七面鳥の丸焼き

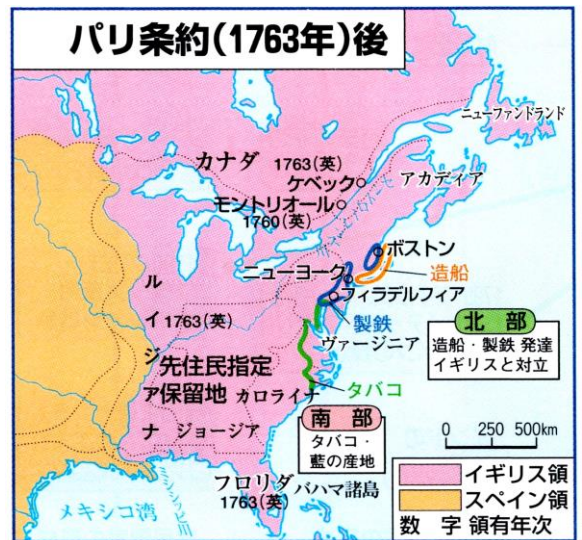
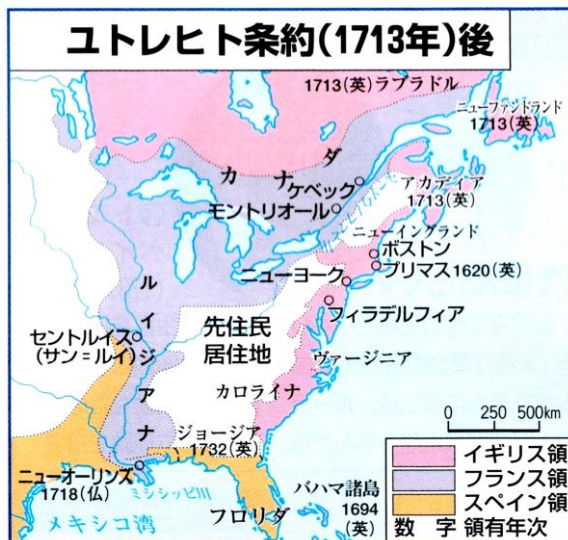


ピルグリム=ファーザーズ
背景には、ジェームズ1世によるピューリタン弾圧があった。イギリス史とからめて覚えよう。

- ・1632年、メリーランド植民地が建設された。
- ・キリスト教の一派クウェーカー教徒が、() 植民地を建設した。
- ・1664年、イギリス=オランダ戦争の際に、オランダ領のニューアムステルダムを占領して () と改称し、植民地とした。
- ・1732年、() 番目の植民地として、() 植民地が建設された。



ウィリアム=ペン
ペンシルヴェニアの名は、彼の同名の父にちなむ。



2 イギリス北米植民地の特色

- ・北部と中部…造船業や海運業など、商工業が発達していた。
- ・南部…（ ）を使用した大規模な（ ）経営により、初期はタバコ、米、インディゴ、後に綿花などを生産していた。

- ・植民地では、イギリス本国にならって（ ）を設けるなど、自立の気風が強く大幅な自治を獲得していた。
- ・イギリスは、北米植民地に対して（ ）政策をとり、いろいろな法律で植民地の産業を規制しようとしていた。
→しかし植民地の反抗を恐れ、規制はほとんど実施されなかった。
※この政策は「有益なる怠慢」といわれる。



ハーバード大学
マサチューセッツ州にあり現在でも世界最高峰の大学のひとつ。設立は17世紀初頭で、アメリカ独立よりも前である。

3 植民地と本国の対立

- ・ヨーロッパにおける七年戦争と連動して、（ ）が起こり、イギリスが勝利して1763年にパリ条約が結ばれた。
→イギリスはフランスから（ ）やカナダなどを獲得し、フランスは北米から撤退した。

<北米植民地をめぐる情勢の変化>

- ・イギリスは、七年戦争など相次ぐ戦争で財政難となっていた。
→国王ジョージ3世は、植民地から税金を取ることで、財政難を解決しようとした。
- ・植民地は、パリ条約の結果フランスの脅威から解放された。
→イギリス本国に頼る必要がなくなった。



タウンゼンド蔵相

- ・1764年、イギリスは砂糖法を制定し、外国産の砂糖に高関税をかけた。
- ・1765年、イギリスは（ ）を制定した。
→植民地側は、「 」という論理で猛反対した。
- ・1767年、イギリスはタウンゼンド諸法を制定し、生活必需品に関税をかけた。
→イギリス製品の不買運動が起きた。
- ・1773年、イギリスは（ ）を制定した。
→反発した市民が（ ）を起こした。
→イギリスは、（ ）するなど、植民地の反抗を弾圧した。
→イギリス本国と植民地との対立が避けられない状態となった。



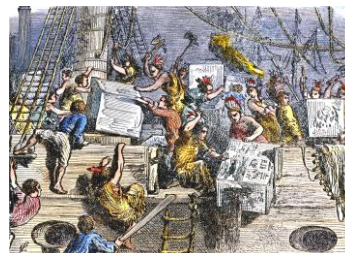
イギリス王ジョージ3世

ハノーヴァー朝の国王。植民地への課税は、アメリカ独立を招いた。晩年は精神的に病んで、廢人になってしまった。



反発する植民地

植民地の人々は、印紙法に反対し、イギリスの印紙販売代理人を吊るしあげた。印紙法は強烈な反対のため、翌年撤廃された。



ボストン茶会事件

12月の寒い夜、なぜかインディアンに扮装した市民が、東インド会社の船を襲い、船にあった324の茶箱すべてが、海に投げ捨てられた。ついでに船員も投げ捨てられた。その日ボストン湾は、紅茶色に染まったという。